

ギリシア語

ギリシア語科目の学修の目安(到達のポイント)および学習動機別の効果的な履修モデルは以下のとおりです。

(1)ギリシア語学修の目安

	到達のポイント	習得する語彙数の目安	資格検定などで対応するレベル
初級	<p>古代ギリシア語の基本的な文法や語彙を習得する。また日本語や英語との対照から、ギリシア語ならではの表現方法に着目し、その背後にある古代ギリシア人的な発想、思考、文化のありようを理解する。</p> <p>【読む】ギリシア文字がわかり、自力で辞書が引け、基本的な構文を用いた簡単な内容の文章を読めるようになる。</p> <p>【書く】学習した基本的な文法や語彙を用いてごく簡単な内容の文章を書けるようになる。</p> <p>【話す・聞く】挨拶程度ならば口頭で表現でき、聞き取れるようになる。</p>	300	
中級	<p>初級の学習内容を補完し、文法に習熟する。原典の作家が用いている修辭と文体の工夫に慣れ親しむ。古代ギリシアの文化、社会、歴史についての知識と理解を深める。</p> <p>なお、ギリシア語科目では、中級と上級の授業に学習の段階的な区別は設けていない。中級と上級では異なった作家の原典を講読するので、作家の文体も著作内容の分野も異なる。受講生はそれぞれの興味と関心に従って、どちらかを選択することができる。</p> <p>【読む】辞書を用いて、原典の文章を読解できるようになる。</p> <p>【話す・聞く】古代詩を朗読したり、耳で聴いて味わえるようになる。</p>	600～1000	
上級	<p>初級の学習内容を補完し、文法に習熟する。原典の作家が用いている修辭と文体の工夫に慣れ親しむ。古代ギリシアの文化、社会、歴史についての知識と理解を深める。</p> <p>なお、ギリシア語科目では、中級と上級の授業に学習の段階的な区別は設けていない。中級と上級では、異なった作家の原典を講読するので、作家の文体も内容の分野も異なる。受講生はそれぞれの興味と関心に従って、どちらかを選択することができる。</p> <p>【読む】辞書を用いて、原典の文章を読解できるようになる。</p> <p>【話す・聞く】古代詩を朗読したり、耳で聴いて味わえるようになる。</p>	600～1000	

(2)ギリシア語履修案内

学習動機	大学院進学も視野に入れ、専門的研究でギリシア語を活用したい。
効果的な履修モデル	<p>【1年次】ギリシア語初級Ⅰ、初級Ⅱを通年で履修。</p> <p>【2年次】ギリシア語中級Ⅰ、Ⅱを通年で履修。</p> <p>【3年次、4年次】ギリシア語中級Ⅰ、Ⅱあるいは上級Ⅰ、Ⅱを通年で履修。</p>
学習動機	将来ギリシア語を専門的に用いるかどうかは分からないが、大変興味があり、教養の基盤としても、ギリシア語の基礎をしっかりと身につけておきたい。
効果的な履修モデル	<p>【1年次】ギリシア語初級Ⅰ、初級Ⅱを通年で履修。</p> <p>【2年次】ギリシア語中級あるいは上級Ⅰ、Ⅱを通年で履修。</p>

学習動機	ギリシア語を専門的に用いることはないが、ギリシア語がどのような言葉であるかを理解して、西洋文化とその歴史への関心を高めたい。
効果的な履修モデル	【1年次】ギリシア語初級Ⅰを春夏学期に履修。興味をもてたら、初級Ⅱを続けて履修。